学校便り
No.１９

五輪の書

令和８年１０月１日（木）
文責：池田　誠

シルバーウィークがあったからでしょうか？あっという間に９月が過ぎ去った感じがします。１０月に入り、運動場や体育館では各学年が運動会の練習に取り組んでいる様子が窺えます。

さて、今年度の運動会の全員競技は、４・５・６年児童へのアンケートにより「全員リレー」となりました。最近の運動会では、どの小学校でもリレー競技を実施することが少なくなったので、校長自ら楽しみにしています。（現在の全児童も運動会では未経験だと思います。）今日の全校朝会で「全員リレー」のよさを子どもたちに伝えましたので、紹介します。

心のバトンを繋ごう「全員リレー」

みなさん、おはようございます。あと３週間経つと運動会ですね。体育館や運動場から皆さんが練習している声が聞こえてくると、校長先生もわくわくします。

でも、運動が得意でない人の中には、運動会に気持ちが乗らない人もいるかもしれません。そんな人にこの言葉を贈ります。「向き不向きより、前向き」自分に向いているとか、向いていないとか考えるよりも、前向きにがんばることが大切なのです。

さて、今年の運動会で校長先生が一番楽しみにしている競技があります。それは、全員リレーです。校長先生も詳しくは分からないのですが、１年生から３年生までの全員リレーと４年生から６年生までの全員リレーがあるそうです。校長先生が全員リレーを楽しみにしている理由は５つあります。

１つ目は、「全員が主役になれる」からです。足の速い子だけではなくて、全員が参加して１本のバトンをつなぐことで、気持ちが１つ（一体感が生まれる）になれます。

２つ目は、「協力する心が育つ」からです。練習や作戦会議を通じて、声を掛け合ったりバトンパスの工夫をしたりすることで、協力して目標に向かってがんばる心が育ちます。

３つ目は、「大きな感動を味わえる」からです。練習の成果を発揮して全員でゴールまで走り切ることで、勝ち負けにかかわらず、やりきったぞという感動をみんなで味わうことができます。

４つ目は「強い心が育つ」からです。全員リレーには心配なことがありますね。「バトンを落としたらどうしよう」とか「自分が追い抜かれて順位が落ちたらどうしよう」とか「足が遅いことをみんなに見られるから嫌だ」とかです。これらの心配なことや苦しいことを乗り越える強い力は、大人になってもきっと役に立ちます。

そして最後の５つ目が、全員リレーが大好きな１番の理由です。それは、「仲間のためにがんばる」という気持ちになれるということです。全員リレーは徒競走と違って仲間のために走ります。さらには、仲間の走りを全力で応援します。

心理学の研究によれば、１人で挑戦するより、仲間と一緒に挑戦する方が何倍も「がんばる力」が大きくなるそうです。とっても素敵なことですね。

これから、全員リレーの練習も始まるかと思います。走ることに自信のない人も勇気を持ってバトンを受け取ってください。走るのが速い人は苦手な友達をどうカバーするか真剣に考えてください。バトンを繋ごうとする気持ちがいちばん大切なのです。全員リレーの練習や本番を通して、さらに素敵な学級や学校になっていくことを期待しています。お話を終わります。

私たち教職員は、単なる「順位」という結果だけを見るのではなく、全員リレーを通して「仲間のために一生懸命がんばる心情や態度」を身につけていくプロセスを評価していこうと考えます。走ることが得意であろうが苦手であろうが、お互いが仲間のために支え合う瞬間にドラマがあります。それは教室の授業だけでは得られない「生きた学び」になると信じています。

もし、お子さんが全員リレーに対して不安を口にされたら、「一生懸命バトンを繋ごうとする姿が一番かっこいいんだよ。」と励ましてください。保護者の温かな応援が、子どもたちの自信に繋がります。